

蓄積された様々な技術を活かして 産業機械からそうめん製造機まで幅広い製品づくり

佐世保市のJR早岐駅にほど近い広田工業団地の一面にある(株)富士商工は、昭和二十六年(有)富士商工として佐世保市塩浜町で創業した。

会社設立から昭和四十年代までは、地元大手造船会社から受注する船舶機関の修理が主な業務であった。しかし、一社に依存する経営に限界を感じた同社は、それまでの体制から脱却するために設計部門を強化し、県北地域の地場産業である窯業の関連機械の製作にも取り組み始めた。

しかし、発展への道のりは決して平坦ではなかった。昭和五十年に現在の広田工業団地に移転した後も順調に業績を伸ばしていたが、バブル崩壊により業績は悪化。平成十年頃には、

売上額は最盛期の半分以上に減少した。会社存続の危機に直面した同社は、従業員の削減など組織体制の見直しを進める一方で、成長が見込める半導体関連装置の製造に着手し、経営基盤を強化することで業績は徐々に回復していった。

現在、同社は、設計から製造、組み立てまでの一貫した生産体制で、一般産業機械、半導体・液晶関連装置、鉄道用台車検査設備など、幅広い顧客ニーズに応える製品づくりを展開している。その中でも注目されているのが、オリジナルの手延麺全自動延伸サバキ機「フジエイト」と自動乾麺切断装置「スーパークット・フジ」である。

島原半島のそうめん業界から相談を受けた県の工業技術センターが開発し、同社が製品化したこの製品は、奈良県、香川県、小豆島のそうめん業者だけではなく、五島手延うどんの製麺所にも納品されており、業界で高い評価を得ている。そして近年、その蓄積した技術を活かし、麺棒に付着した節麺を落とす「麺棒節取り装置」を製品化するなど、新たな製品づくりにも取り組んでいる。

同社では、製品の品質向上を図るため、平成十七年に品質管理の専門家の指導を受けて社内に改善委員会を発足。さらに入社を希望する若い人材を三ヶ月間、研修員として受け入れ、ベテラン社員がマンツーマンで指導した後正社員として雇用する「トライアル雇用」という独自の制度を導入し、将来を見据えた若手の育成にも力を注いでいる。「地場の企業として仕事を続け、地元雇用で地域に貢献する会社でありたい」と願っています。」と語るのは、中島洋一社長。人材はまさに「人財」、大切な経営資源であるという企業理念が生きている。

工場では、男性社員に交じって働く女性スタッフの姿もあった。「現在の従業員数は約百六十名で、そのうち三十名が女性です。女性のきめ細やかな感性は製品づくりや品質管理にとっても活かされています。何よりも社内の雰囲気明るくなりますからね。」中島社長はこう言って目を細めた。

地元雇用で地域に貢献し、確かな技術で信頼ある製品づくりを追求する(株)富士商工。今年二月には同敷地内に新工場が完成し、さらなる発展に大きな期待が寄せられている。

達人たちの挑戦⑮ オンリーワンの技術

そうめん製造の省力化に貢献する

手延麺全自動 延伸サバキ機

鉄道や船舶など、さまざまな分野で使用されている産業機械。用途によって機能も形状も異なるこれらの機械を製造するためには幅広いニーズに対応できる豊富な知識と確かな技術が必要である。今回は、設計から製造、組み立てまでの一貫した生産体制で製鉄や造船、食品など、多種多様な分野の機械製造に取り組む(株)富士商工を訪れ、その信頼ある製品づくりを紹介する。



製品づくりに取り組む女性スタッフ



同社の新製品、麺棒節取り装置

※節麺・・・手延べそうめんやうどんをのばしてから干した後、直線部分を切り落とし、後に残る曲がった部分。



株式会社 富士商工

昭和26年、(有)富士商工として佐世保市で創業。船舶機関修理を主な業務として事業を展開した後、窯業機械をはじめとした陸上分野に進出。昭和46年、(株)富士商工に組織を改編、同50年に佐世保市の広田工業団地に移転。現在、一般産業機械、半導体・液晶関連装置、鉄道用台車検査設備など、幅広い分野の製品づくりに取り組む一方、地場産業のニーズに対応する自社製品を開発。その確かな技術は高い評価を得ている。

●佐世保市広田4-5-27 TEL.0956-38-2141